

アジア・ヘルスケア株式ファンド

追加型投信／海外／株式

交付運用報告書

第18期（決算日2023年12月21日）

作成対象期間（2023年6月22日～2023年12月21日）

第18期末（2023年12月21日）	
基準価額	9,216円
純資産総額	6,252百万円
第18期	
騰落率	△0.1%
分配金（税込み）合計	0円

（注）騰落率は分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

（注）純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

○交付運用報告書は、運用報告書に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。その他の内容については、運用報告書（全体版）に記載しております。

○当ファンドは、投資信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を、電磁的方法によりご提供する旨を定めております。運用報告書（全体版）は、下記の手順にて閲覧・ダウンロードいただけます。

<運用報告書（全体版）の閲覧・ダウンロード方法>

右記URLにアクセス ⇒ ファンド検索機能を利用して該当ファンドのページを表示 ⇒ 運用報告書タブを選択 ⇒ 該当する運用報告書をクリックしてPDFファイルを表示

○運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付をご請求される方は、販売会社までお問い合わせください。

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、「アジア・ヘルスケア株式ファンド」は、2023年12月21日に第18期の決算を行ないました。

当ファンドは、主として、日本を除くアジアの金融商品取引所に上場されている医療関連企業の株式を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。

ここに、当作成対象期間の運用経過等についてご報告申し上げます。

今後とも一層のお引き立てを賜りますようお願い申し上げます。

<642681>

日興アセットマネジメント株式会社

東京都港区赤坂九丁目7番1号
www.nikkoam.com/

当運用報告書に関するお問い合わせ先

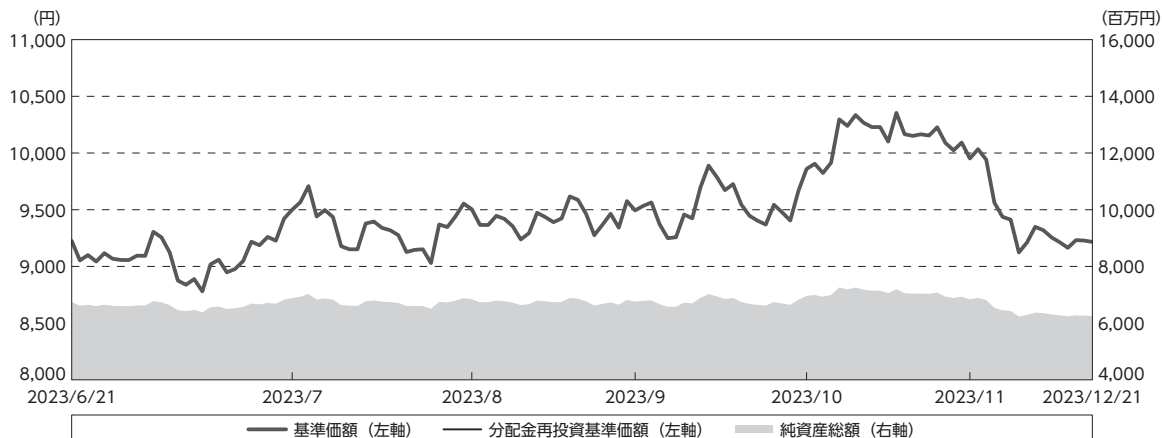
コールセンター 電話番号：0120-25-1404
午前9時～午後5時 土、日、祝・休日は除きます。

●お取引状況等についてはご購入された販売会社にお問い合わせください。

運用経過

期中の基準価額等の推移

(2023年6月22日～2023年12月21日)



期 首：9,225円

期 末：9,216円 (既払分配金 (税込み)：0円)

騰落率：△0.1% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は、分配金 (税込み) を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、期首 (2023年6月21日) の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

○基準価額の主な変動要因

当ファンドは、主として、日本を除くアジアの金融商品取引所に上場されている医療関連企業の株式を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行なっております。当作成期間中における基準価額の主な変動要因は、以下の通りです。

<値上がり要因>

- ・米国の債務上限問題の懸念後退や中国の景気対策期待の高まりなどを背景に、主要株式市場が堅調に上昇したこと。
- ・米国の利上げ終了観測などを受けて世界的に金利が急低下したことや、米中首脳会談などを受けて、市場が2023年の年初来の高値圏まで反発したこと。
- ・米国の利上げ長期化観測や世界的な金利上昇などを背景にアメリカドルや主要通貨に対して円安が進み、円ベース・リターンの押し上げ効果となったこと。

＜値下がり要因＞

・米国の金融引き締めの長期化観測や、中国の景気懸念と不動産信用問題の再燃、中東情勢の混乱などが悪材料となり世界的な株安となったこと。

1 万口当たりの費用明細

(2023年6月22日～2023年12月21日)

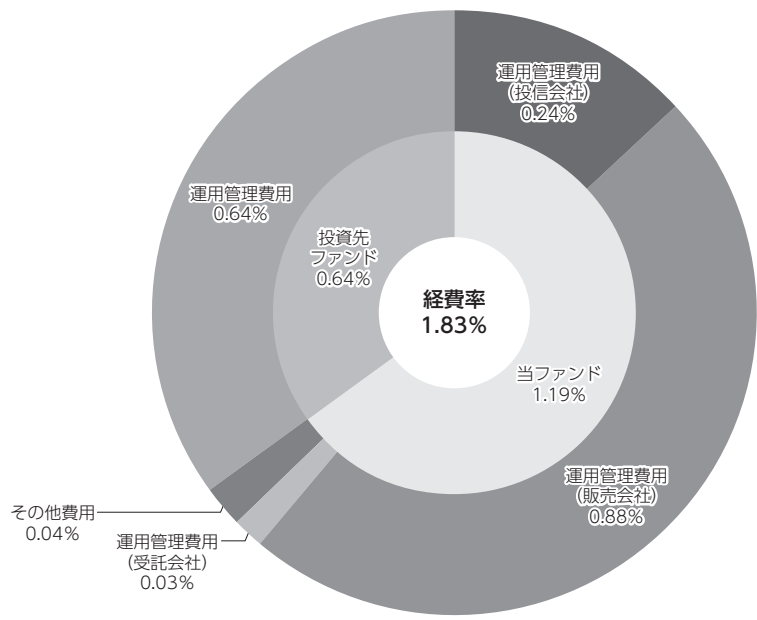
項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信託報酬	円 55	% 0.577	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率
(投信会社)	(12)	(0.121)	委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(42)	(0.440)	運用報告書など各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供などの対価
(受託会社)	(2)	(0.016)	運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用	2	0.021	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数
(監査費用)	(0)	(0.002)	監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(印刷費用等)	(2)	(0.019)	印刷費用等は、法定開示資料の印刷に係る費用など
合 計	57	0.598	
期中の平均基準価額は、9,561円です。			

- (注) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) その他費用は、このファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 当該投資信託証券の直近の計算期末時点における「1 万口当たりの費用明細」が取得できるものについては「組入上位ファンドの概要」に表示することとしております。
- (注) 各比率は1 万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3 位未満は四捨五入してあります。
- (注) この他にファンドが投資対象とする投資先においても信託報酬等が発生する場合があります。

(参考情報)

○経費率（投資先ファンドの運用管理費用以外の費用を除く。）

期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した経費率（年率）は1.83%です。



(単位: %)

経費率(①+②)	1.83
①当ファンドの費用の比率	1.19
②投資先ファンドの運用管理費用の比率	0.64

(注) 当ファンドの費用は1万口当たりの費用明細において用いた簡便法により算出したものです。
(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。
(注) 「その他費用」には保管費用が含まれる場合があります。なお、「その他費用」の内訳は「1万口当たりの費用明細」にてご確認ください。期中の費用の総額と年率換算した値は一致しないことがあります。
(注) 各比率は、年率換算した値です。
(注) 投資先ファンドとは、当ファンドが組み入れている投資信託証券（親投資信託を除く。）です。
(注) 当ファンドの費用は、親投資信託が支払った費用を含み、投資先ファンドが支払った費用を含みません。
(注) 当ファンドの費用と投資先ファンドの費用は、計上された期間が異なる場合があります。
(注) 投資先ファンドには運用管理費用以外の費用（事務管理費用、資産の保管費用、監査費用、信託財産に関する租税など）がある場合がありますが、上記には含まれておりません。
(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

最近5年間の基準価額等の推移

(2018年12月21日～2023年12月21日)



(注) 分配金再投資基準価額は、分配金（税込み）を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。

(注) 分配金を再投資するかどうかにについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) 分配金再投資基準価額は、2018年12月21日の値が基準価額と同一となるように指数化しております。

	2018年12月21日 決算日	2019年12月23日 決算日	2020年12月21日 決算日	2021年12月21日 決算日	2022年12月21日 決算日	2023年12月21日 決算日
基準価額 (円)	6,848	7,241	11,022	9,726	9,026	9,216
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
分配金再投資基準価額騰落率 (%)	—	5.7	52.2	△ 11.8	△ 7.2	2.1
純資産総額 (百万円)	12,890	11,316	12,841	8,145	6,963	6,252

(注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。

(注) 純資産総額の単位未満は切捨てて表示しております。

(注) 騰落率は1年前の決算応当日との比較です。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

投資環境

(2023年6月22日～2023年12月21日)

(アジア株式市況)

2023年の後半は、投資家のセンチメント（心理）が「希望」と「恐怖」という両極端を周期的に往復する展開となりました。米国のインフレが予想より収束が早かったため、米国連邦準備制度理事会（F R B）による積極的な引き締めサイクルが終了し、金利がさらに大きく上昇することはないとの観測を背景に投資家は楽観的な見方を強めました。しかしながら、国内総生産（G D P）成長率や雇用統計の好調な結果は、一般的に言われていた景気後退入りの可能性を低下させる一方で、「より長く、より高い」金利環境に対する懸念が台頭しました。さらに、国債利回りの上昇や、必要ならば追加利上げも辞さないというF R Bによるタカ派（金融引き締めの政策を支持）的な発言が続いたことで、市場は不透明な状況となりました。

また、低迷する中国経済が状況をさらに複雑化させました。7月には、中国の首脳が内需の拡大および苦境に立つ不動産市場の支援に焦点を当て、回復途上の経済を下支えするために追加的な政策支援を実施すると表明したことを受けて、中国株式市場は上昇しました。しかし8月になり、景気低迷が続くとの懸念や、景気刺激策が不十分であるとの見方から、市場は下落基調となりました。その後年末にかけては、経済指標が改善し、中国人民銀行が金融刺激策の強化を明白にしたことで、中国市場は緩やかな下落にとどまりました。

期間中、アジアのヘルスケア市場は上昇しました。国別では、インドや韓国が上昇する一方、中国は下落しました。中国では、政府の反腐敗キャンペーンの一環として2023年8月に実施された反腐敗の検査が、ヘルスケアセクターの主要企業の2023年第3四半期決算に悪影響を及ぼすとの懸念があったものの、その懸念は払拭されました。しかし、12月上旬、中国の生物製剤C D M O（医薬品受託製造開発機関）大手のウーシー・バイオリジクスが、資金調達環境の悪化に伴う世界的なC D M O事業の減速や、規制当局による承認遅れを受けて、複数の大手製薬企業から受注した大型プロジェクトが遅延していることを理由に、通期の業績見通しを下方修正したことを受けて、中国の医薬品関連業務受託機関（C X O）銘柄は再び下落し、ヘルスケアセクター低迷の一因になりました。

(国内短期金利市況)

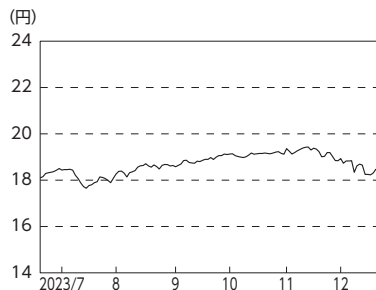
無担保コール翌日物金利は、期間の初めの－0.07%近辺から、日銀によるマイナス金利政策の下でコール市場でもマイナス圏での取引が続き、－0.01%近辺で期間末を迎えました。

国庫短期証券（T B）3ヵ月物金利は、期間の初めの－0.15%近辺から、日銀による国債買入れの継続などを受けてマイナス圏での推移が続き、－0.18%近辺で期間末を迎えました。

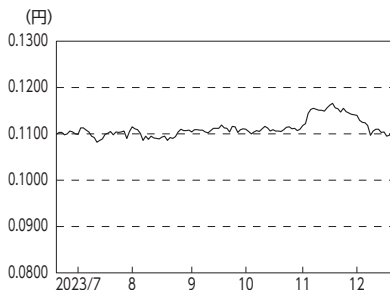
(為替市況)

期間中における主要通貨（対円）は、下記の推移となりました。

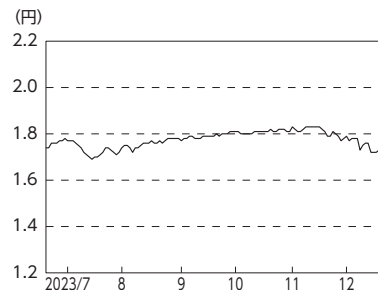
円／香港ドルの推移



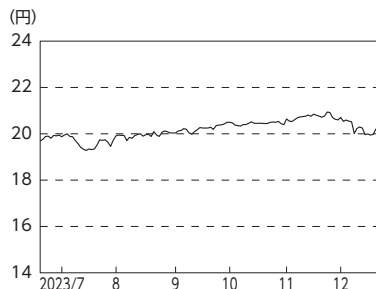
円／韓国ウォンの推移



円／インドルピーの推移



円／香港・オフショア人民元の推移



当ファンドのポートフォリオ

(2023年6月22日～2023年12月21日)

(当ファンド)

当ファンドは、収益性を追求するため、「日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（JPYクラス）」受益証券を高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制しました。

(日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（JPYクラス）)

期間中、国別では、インドが最もプラスに寄与しました。主な要因としては、インドの製薬会社について、米国のジェネリック医薬品市場における価格下落幅が小さかったこと、ならびに、インド国内では、製造コストの上昇圧力が小さいなかで医薬品の売上増加率が安定的に推移したことが挙げられます。ただし、当ファンドでは、ファンダメンタルズ（経済の基礎的条件）が伴わないヘルスケア企業は引き続き回避する方針です。

韓国もプラスに寄与しました。セルトリオンは、グループ内の子会社2社の合併や、開発中のバイオシミラー（バイオ後続品）が米国食品医薬品局（FDA）の承認を取得したことが好感され、株価が上

昇しました。韓国最大の生物製剤のバイオ受託製造機関（CMO）であるサムスンバイオリジックスは、市場予想を上回る好調な四半期決算を発表し、通期見通しを上方修正したものの、株価は冴えませんでした。対照的に、CDMOのグローバル企業は、高金利環境下におけるバイオテクノロジー関連の資金調達の鈍化や、新型コロナウイルス関連プロジェクトの減少を受けて、業績見通しを下方修正しました。当ファンドでは、サムスンバイオリジックスのファンダメンタルズは良好であり、F R Bがハト派（金融緩和的な政策を支持）的スタンスに転換することが予想されるなか、同社のバリュエーション（株価評価）がファンダメンタルズに「追いつく」ことを期待しています。

中国では、銘柄選択がプラスに寄与しました。主に、ハッチメッド、イノベント・バイオリジクス、チャイナ・メディカル・システム・ホールディングスなどの株価が上昇しました。また、C X O企業における銘柄選択も奏功しました。

最後に、タイの病院の組入比率を低めにしていたことも、プラスに働きました。タイの病院銘柄の株価は過去2年くらいの間で大きく上昇し、その反動による利益確定売りが上値を重くしました。

（マネー・アカウント・マザーファンド）

運用の基本方針に従い、国庫短期証券の購入や現先取引、コールローンや金銭信託などを通じて、元本の安全性を重視した運用を行ないました。

当ファンドのベンチマークとの差異

（2023年6月22日～2023年12月21日）

当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数が存在しないため、ベンチマークおよび参考指数を設定しておりません。

分配金

（2023年6月22日～2023年12月21日）

分配金は、基準価額水準、市況動向などを勘案し、以下のとおりいたしました。なお、分配金に充たなかった収益につきましては、信託財産内に留保し、運用の基本方針に基づいて運用いたします。

○分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第18期
	2023年6月22日 ～2023年12月21日
当期分配金	—
（対基準価額比率）	—%
当期の収益	—
当期の収益以外	—
翌期繰越分配対象額	1,951

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

今後の運用方針

(当ファンド)

引き続き、「日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（ＪＰＹクラス）」受益証券を原則として高位に組み入れ、「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券への投資を抑制する方針です。

(日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（ＪＰＹクラス）)

世界金融危機以降の比較的平穏な市場環境は終焉を迎えており、「量的引き締め」という新たな社会が金融市場の流動性を縮小させています。ただ、金融引き締めはすでにピークに近づいている様相を呈している一方、最近のデータはインフレが鈍化していることを示しています。ただし、米国の景気後退の懸念が払拭されてはならず、まだ楽観視する段階にはありませんが、転換点が近づいていることを示唆しています。ＦＲＢによる利上げが一服して、アメリカドル安が進行し、一部の新興国の中央銀行は米国に先立って利下げに踏み切っています。

一方、地政学的には、中東情勢が不透明感を増すなど、安定する兆しがほとんど見られません。2024年は、1月の台湾の総統選挙を皮切りに11月の米国の大統領選挙まで多くの選挙が予定されており、取引材料の多い1年になりそうです。選挙期間中に相場が荒れる可能性はありますが、選挙が実際に経済や市場に影響を与えることを示す証拠は歴史的にはほとんど存在しません。

アジアについては、政府による事業環境の良化を図る支援政策に加え、景気に対する信頼感の改善に伴い生産と個人消費が拡大しており、先進国よりも大きな市場に成長する可能性があると考えられます。企業のバランスシートは堅固でバリュエーションも魅力的であり、過去1年で投資家が資金を引き揚げたことを考えると、資金流入の余地が生まれています。

ヘルスケアセクターでは、中国が大きなブレーキになりました。当ファンドでは、中国のヘルスケア市場の回復には楽観的であり、以下の3つの要素を注視しています。1つ目は、2023年になり腫瘍学の分野で大手製薬会社が中国の抗体薬物複合体の大型ライセンス契約を複数締結したことです。2024年にはデータが公表されることで開発パイプラインが評価され、株価水準も見直されと考えられます。2つ目は、減量薬が世界的に大成功を収めたことで、肥満症に対する新たな治療法の開発が活発化していることです。中国で初めて開発された肥満症治療薬は2024年に臨床試験を完了し、承認申請される見込みです。3つ目は、金利サイクルの転換が資金調達の流れを変え、バイオテクノロジー企業の株価の低迷に終止符が打たれることが期待されることです。

韓国では、アルツハイマー治療薬やヒュミラ（関節リウマチ治療薬）のバイオシミラーの発売動向を引き続き注視します。ＡＩ（人工知能）を活用した医療診断、細胞・遺伝子治療、メディカルエステティックの分野にもすでに投資しており、2024年もこれらの成長分野へ追加投資を行う予定です。

インドでは、バリュエーションが割高で、製薬会社にとってのドライバーや材料がほとんど見当たらないものの、インドの病院銘柄については構造的な内需要因により強気な見方を維持しています。2024年も、高等な手術の割合を高める一方で保険患者の割合を増やし、経営効率を向上させることで、インドの病院はケース・ミックス（国際疾病分類を使って、重症度や医療資源の必要度により患者を分類すること）の改善を通じて成長を持続させることができると考えています。

長期的には、アジアのヘルスケア市場のファンダメンタルズに基づく投資妙味に揺らぎはないと考えています。過去5年間で市場は非常に大きく拡大しました。中国や韓国などの市場で医療イノベーション（革新）に向けたヘルスケア改革が進み、バイオテクノロジー、ＣＸＯ、ＡＩなどの新たなサブセク

ターが登場したことによって、アジアのヘルスケアセクターにおける投資機会は大きく拡大しました。当ファンドでは、アジアのヘルスケアセクターの発展は、投資家により高いリターンをもたらすと考えています。当ファンドでは、あらゆる調整機会を捉えてこの構造的成長セクターに投資する方針です。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

(マネー・アカウント・マザーファンド)

引き続き、安定した収益の確保をめざして安定運用を行なう方針です。主な投資対象は、わが国の国債および格付の高い公社債とし、それらの現先取引なども活用する方針です。また、コールローンや金銭信託などに投資することもあります。

将来の市場環境の変動などにより、当該運用方針が変更される場合があります。

今後ともご愛顧賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

お知らせ

2023年6月22日から2023年12月21日までの期間に実施いたしました約款変更は以下の通りです。

当ファンドについて、その商品性、基準価額水準および純資産規模等を勘案し、新NISA制度における成長投資枠の要件に適合させるため、信託期間を無期限とするよう、2023年9月22日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。
(第4条、第47条)

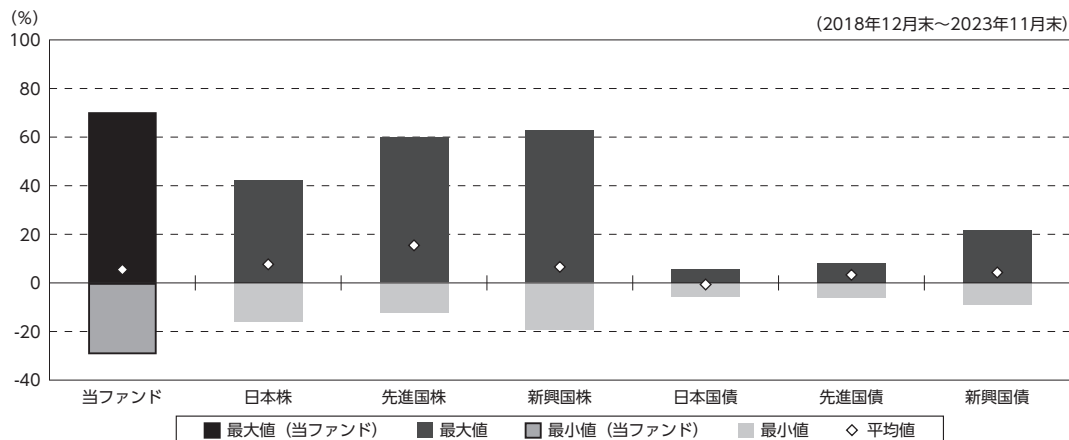
当ファンドについて、新NISA制度における成長投資枠の要件に適合させるため、投資対象ファンドにて行なうデリバティブ取引の利用目的を明確化するべく、2023年9月22日付けにて信託約款の一部に所要の変更を行ないました。
(付表)

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／海外／株式
信 託 期 間	2015年1月16日から原則無期限です。
運 用 方 針	主として、アジア（日本を除きます。）各国の金融商品取引所に上場されている医療関連企業の株式（これに準ずるものを含みます。）を投資対象とする投資信託証券（投資信託または外国投資信託の受益証券（振替投資信託受益権を含みます。）および投資法人または外国投資法人の投資証券をいいます。）の一部、またはすべてに投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。
主 要 投 資 対 象	「日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（J P Yクラス）」受益証券 「マネー・アカウント・マザーファンド」受益証券 上記の投資信託証券を主要投資対象とします。
運 用 方 法	主として、日本を除くアジアの金融商品取引所に上場されている医療関連企業の株式を投資対象とする投資信託証券に投資を行ない、中長期的な信託財産の成長をめざして運用を行ないます。大企業から中堅企業、ベンチャー企業まで、幅広いユニバースから銘柄を選択します。原則として、為替ヘッジは行ないません。
分 配 方 針	毎決算時、原則として分配対象額のなかから、基準価額水準、市況動向などを勘案して分配を行なう方針です。 ただし、分配対象額が少額の場合には分配を行なわないこともあります。

(参考情報)

○当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



(単位: %)

	当ファンド	日本株	先進国株	新興国株	日本国債	先進国債	新興国債
最大値	70.3	42.1	59.8	62.7	5.4	8.0	21.5
最小値	△29.4	△16.0	△12.4	△19.4	△5.5	△6.1	△8.8
平均値	5.5	7.6	15.4	6.6	△0.6	3.3	4.3

(注) 全ての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

(注) 2018年12月から2023年11月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を表示したものです。

(注) 上記の騰落率は決算日に対応した数値とは異なります。

(注) 当ファンドは分配金再投資基準価額の騰落率です。

《各資産クラスの指数》

日本株: 東証株価指数 (TOPIX、配当込)

先進国株: MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース)

新興国株: MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース)

日本国債: NOMURA-BPI国債

先進国債: FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース)

新興国債: JPMorgan GBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース)

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しております。

指数について

●東証株価指数 (TOPIX、配当込) は、日本の株式市場を広範に網羅するとともに、投資対象としての機能性を有するマーケット・ベンチマークで、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、株式会社 J P X 総研又は株式会社 J P X 総研の関連会社に帰属します。●MSCI-KOKUSAIインデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、日本を除く世界の先進国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込、円ベース) は、MSCI Inc.が開発した、世界の新興国の株式を対象として算出した指数で、配当を考慮したものです。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc.に帰属します。●NOMURA-BPI国債は、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社が公表している指数で、その知的財産権は野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社に帰属します。なお、野村フィデューシャリー・リサーチ&コンサルティング株式会社は、対象インデックスの正確性、完全性、信頼性、有用性を保証するものではなく、対象インデックスを用いて行われる日興アセットマネジメント株式会社の事業活動・サービスに関し一切責任を負いません。●FTSE世界国債インデックス (除く日本、円ベース) は、FTSE Fixed Income LLCにより運営され、日本を除く世界主要国の国債の総合収益率を各市場の時価総額で加重平均した指数です。なお、当指数に関する著作権等の知的財産その他一切の権利は、FTSE Fixed Income LLCに帰属します。●JPMorgan GBI-EMグローバル・ディバースファイド (円ヘッジなし、円ベース) は、J.P. Morgan Securities LLCが算出、公表している、新興国が発行する現地通貨建て国債を対象にした指数です。なお、当指数に関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

当ファンドのデータ

組入資産の内容

(2023年12月21日現在)

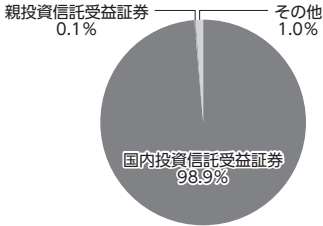
○組入上位ファンド

銘 柄 名	第18期末
	%
日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（ＪＰＹクラス）	98.9
マネー・アカウント・マザーファンド	0.1
組入銘柄数	2銘柄

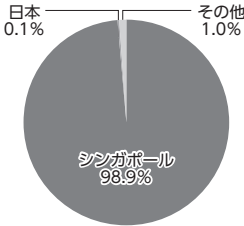
(注) 組入比率は純資産総額に対する評価額の割合です。

(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。

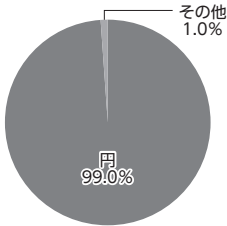
○資産別配分



○国別配分



○通貨別配分



(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。

(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

(注) 国内投資信託受益証券には外国籍（邦貨建）の受益証券を含めております。

(注) その他にはコール・ローン等を含む場合があります。

純資産等

項 目	第18期末
	2023年12月21日
純 資 産 総 額	6,252,352,746円
受 益 権 総 口 数	6,783,869,872口
1 万 口 当 た り 基 準 価 額	9,216円

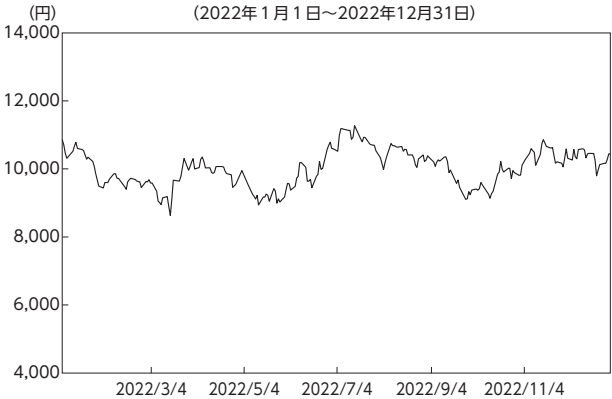
(注) 期中における追加設定元本額は100,326,427円、同解約元本額は629,931,951円です。

組入上位ファンドの概要

日興AMアジア・ヘルスケア・ファンド（J P Yクラス）

【基準価額の推移】

(2022年1月1日～2022年12月31日)



(注) グラフは分配金再投資基準価額です。

【1万口当たりの費用明細】

(2022年1月1日～2022年12月31日)

当該期間の1万口当たりの費用明細については開示されていないため、掲載しておりません。

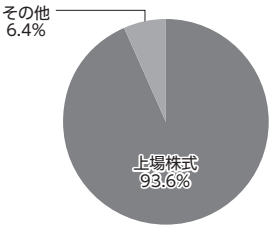
【組入上位10銘柄】

(2022年12月31日現在)

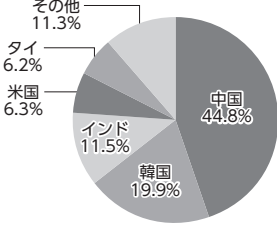
	銘柄名	業種／種別等	国（地域）	比率 %
1	WuXi Biologics Cayman Incorporated	上場株式	中国	9.5
2	Celltrion Incorporated	上場株式	韓国	7.9
3	Samsung Biologics Company Limited	上場株式	韓国	6.7
4	BeiGene Limited	上場株式	米国	6.3
5	CSPC Pharmaceutical Group Limited	上場株式	中国	5.6
6	Sun Pharmaceutical Industries Limited	上場株式	インド	5.5
7	Bangkok Dusit Medical Services Public Company Limited	上場株式	タイ	4.6
8	Innovent Biologics Incorporated	上場株式	中国	4.1
9	Shenzhen Mindray Bio-Medical Electronics Company Limited	上場株式	中国	3.3
10	WuXi AppTec Company Limited - Class H	上場株式	中国	3.3
組入銘柄数			32銘柄	

(注) 比率は、純資産総額に対する割合です。
(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書（全体版）に記載しております。
(注) 国（地域）につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

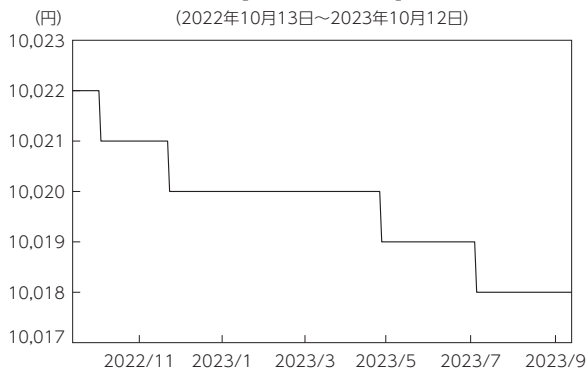
※必要な情報が開示されておりません。

(注) 比率は当ファンドの純資産総額に対する割合です。
(注) 国別配分につきましては発行国もしくは投資国を表示しております。

マネー・アカウント・マザーファンド

【基準価額の推移】

(2022年10月13日～2023年10月12日)



【1万口当たりの費用明細】

(2022年10月13日～2023年10月12日)

項 目	当 期	
	金 額	比 率
	円	%
(a) そ の 他 の 費 用	0	0.000
(そ の 他)	(0)	(0.000)
合 計	0	0.000

期中の平均基準価額は、10,019円です。

(注) 上記項目の概要につきましては運用報告書(全体版)をご参照ください。

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

組入資産の内容

(2023年10月12日現在)

2023年10月12日現在、有価証券等の組入れはございません。

※当マザーファンドの計算期間における運用経過の説明は運用報告書(全体版)をご参照ください。